

# 新フランス大使館

New French Embassy

No. 13-011-2010作成  
新築  
事務所

発注者	フランス外務省	カテゴリー				
設計・監理	株式会社竹中工務店 ADP I TAKENAKA CORPORATION ADPI	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO2技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術/FB	
施工	株式会社竹中工務店	E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携	
		I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他		

## 土地の持つ魅力引き出す森のオフィス

### 敷地環境との調和

#### ●伝統の森を受け継ぐ配置と建物計画

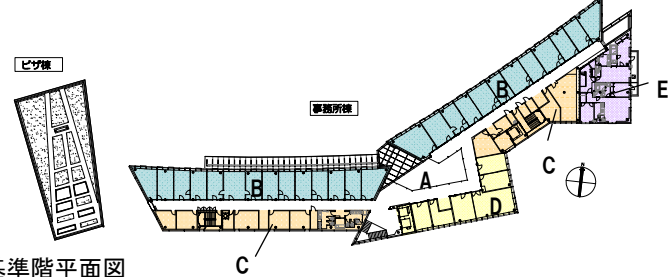
・大使館は敷地内に旧尾張徳川家からの約7000坪の森を受け継いでいる。森をこの敷地の持つ最大の財産と捉え、「森のオフィス」をテーマに、シンボリックかつサステナブルなワークプレイスの実現を目指した。敷地内の森を最大限に保護し環境へのインパクトを最小限にするため、建物は敷地の南端の縁に配置し、「低く、薄く、細長い」建物形状に決定した。

#### ●敷地条件に対応した快適なワークプレイス

・森の景色を建物内に取り込みながら高い断熱性能を維持するため、北側のガラスファサードには全面アルゴンガス封入のLow-Eガラスを採用した。開かれた北面に対し南側は近隣マンションとのプライバシー確保と日射による熱負荷軽減のため、開口部を最小限としてプレキャストコンクリートによる外壁で構成した。各階プランは中廊下式で、北側に執務室、建物の中央に会議室等を配置して全ての職員が森の眺望と安定した光環境、自然の外気を導入できる快適なワークプレイスを実現している。南側には書庫・コピーエリア・階段などのサービス機能を配置した。

#### ●働くグリーンウォール

・エントランスホールへ至る約50mのスロープに沿って「擁壁の立体的緑化を行い、歴史ある自然との一体感を感じるアプローチ空間としている。大使館の森は都心における動物の希少な生息地であり、移動と餌の採取に利用されている。その為グリーンウォールを「修景」としてだけではなく、生命維持の「装置」として、種の保全と再生の場とすることを目指した。植栽に果実のなる植物を混ぜ、食物の枯渇する2月頃まで餌場として機能させるものとした。また飛来する種子の定着場としても期待している。



基礎階平面図  
A: アトリウム B: オフィスエリア C: 倉庫、階段、トイレ等  
D: 会議室エリア E: 職員住宅



空より大使館敷地を見る

1. 新事務所棟 2. 新ビザ棟 3. 旧大使館事務所棟  
4. 大使公邸 5. 森



エントランスアプローチとグリーンウォール (左手)

建物データ	省エネルギー性能	CASBEE評価	
所在地	東京都港区	Sランク	
竣工年	2009年	BEE=4.1	
敷地面積	6,709㎡	2008年度版 第三者認証	
延床面積	8,438㎡	SBI7-キオリティ	
構造	S造、免震構造		
階数	地下1階、地上5階		

### 自然との調和による快適性の創出

#### ●アトリウムを利用した自然換気システム

・アトリウムの煙突効果を利用した自然換気システムを構築した。アトリウム頂部の自然換気窓と、北側(森側)のカーテンウォールに組み込まれた換気用開閉スリットが、室外・室内の温湿度や気候に応じて自動開閉し、良好な外気を積極的に取り込んで室内空気環境を改善する。また、自然換気用開閉スリットとオフィスの窓は手動開閉も可能であり、執務者へ心理的な開放感を与える計画とした。

#### 省エネルギーに配慮した設備計画

##### ●自然エネルギー利用設備

・雨水利用設備を導入し、便所の洗浄水および植栽散水の一部に用いることにより上水使用量の約2割削減を見込んでいる。

・カーテンウォールを有する室の照明設備は、屋内に設けられた昼光センサーによって自動的に調光する昼光利用設備を導入した。

##### ●高い制御性による省エネ運用への取り組み

・空調および照明の監視・制御を、BMS室(設備管理室)から集中的に行えるシステムとした。BMS室には管理者が常駐し、日々のエネルギー消費状況を管理しながら、省エネ運用に取り組んでいる。

・執務室の照明器具は、個室ごとに手動調光を行うことができ、各執務者に最適な明るさに調整できるだけでなく、不必要な明るさを抑えることにより電力消費を低減している。

#### 更新性の高いオフィス計画

##### ●統一モジュール採用によるフレキシブルなインテリアシステム

組織替えによるレイアウト変更の多い大使館の実情に対応するため、ほとんどの内装壁に、1100mmモジュールの可動パーテーションシステムを採用した。照明器具、空調機器等天井の設備機器のレイアウト、家具寸法も徹底して統一したモジュールに合わせ、間仕切りの移動に伴う天井の工事の最小化、家具移設の簡便さ、業務中断の短期化や廃棄物の軽減に配慮した。

##### ●高度情報化に対応した建築計画

執務エリアは、執務室および廊下を全面的にOAフロアとし、情報通信系ケーブルラックにも十分な余剰スペースを確保することにより、大使館内のネットワーク設備の更新や技術革新に対してのフレキシビリティを持つ計画とした。

##### ●長期のパートナーシップに基づいた高品質な建設サービスの実現

・建設後15年間の維持管理、修繕費はコンペ時から事業費に含まれ、設計・施工・管理・修繕を一つの事業者が一貫して行っている。また、設計段階からビル管理会社を参加させ、メンテナンスの容易さや効率化等のアイデアの反映、長期での環境負荷の低減を計画に盛り込んだ。

#### 設計担当者

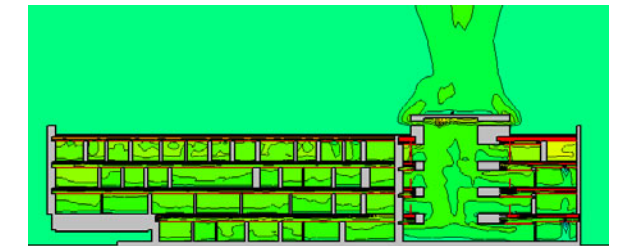
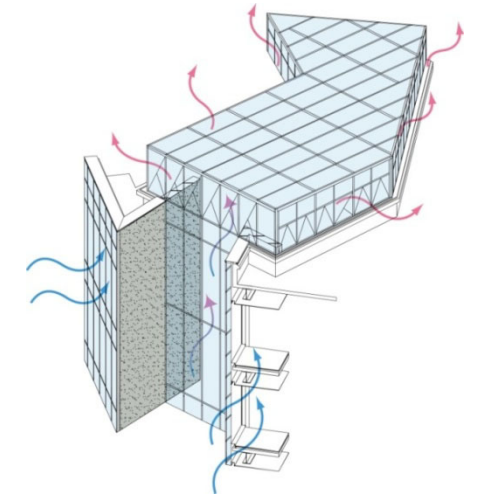
設計(竹中工務店/ADPI)  
建築: ビエール=ミシェル・デルベッシュ、ドミニック・シャヴァンヌ (ADPI)  
プロジェクトマネージャー: 竹馬泰一/建築: 池田達、吉本大史、田村 望  
構造: 村田耕司、渡邊秀幸、長谷川勇樹/設備: 古屋誠一郎、坂本吉宏、園田雄飛  
緑化技術: 佐久間護 (竹中工務店)

#### 主要な採用技術 (CASBEE準拠)

- Q2. 2. 耐用性・信頼性 (免震構造、非常電源供給、防震対策などの実施、)
- Q2. 3. 対応性・更新性 (統一モジュール採用によるプランの高い可変性、執務フロアの階高3.8m、事務所耐荷重4000N、)
- LR1. 1. 建物の熱負荷抑制 (アルゴンガス入Low-Eガラスの採用、南面の開口を最小限とした、空調の個別制御)
- LR1. 2. 自然エネルギー利用 (アトリウムの煙突効果を利用した自然換気、昼光センサーによる自動調光)
- LR1. 4. 効率的運用 (中央監視設備の導入による設備システムの効率的運用)
- LR3. 3. 周辺環境への配慮 (シミュレーションによる温熱環境調査を建物計画に反映、既存の森を最大限に保存)



カーテンウォールに組み込まれた換気スリット



アトリウムの煙突効果を利用した自然換気



統一モジュールによるフレキシブルなインテリア